

## G 7 北九州エネルギー大臣会合における濱地外務大臣政務官の挨拶

- 議長（林経済産業大臣）、ありがとうございます。外務省を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。
- G 7、EUの閣僚及び代表団の皆様、ビロルIEA事務局長、アミンIRENA事務局長、ご列席の皆様、私の地元九州へようこそ。ここ北九州市は、世界に先駆けて環境対策・低炭素エネルギーの導入を掲げ、スマートコミュニティ事業に取り組むと共に、世界でも例の少ない洋上備蓄を行う白島国家石油備蓄基地を有する、エネルギー問題を議論するにふさわしい地であります。
- 先ほど議長から、「グローバル成長を支えるエネルギー安全保障」を大きなテーマとするG 7エネルギー大臣会合の開会が宣言されました。
- 5年前の東日本大震災や2005年米国メキシコ湾で発生したハリケーン・カトリーナなどの自然災害、一昨年のG 7エネルギー大臣会合の起点となったウクライナ危機、ISILによるテロや中東アフリカ地域をはじめとする地政学リスク、昨今の資源価格低迷など、国際エネルギーを巡る情勢は著しく変化しています。こうした地政学的に不透明な状況下、経済成長の基盤となるエネルギー安全保障の確保は、国際社会にとり喫緊の課題です。
- IEAによれば、こうした地政学的要因などから、供給が妨げられたL

NGの量は過去4年間に約3倍増えています。クリーンなエネルギーとして注目されている天然ガス市場は年々拡大しており、その安全保障の強化はとりわけ重要です。今朝の第1セッションで早速議論されますが、今回の会合においてG7による具体的行動が示されることを期待します。

- また、電力供給システムへのサイバー攻撃への対策や、安定的な電力供給の維持・強化といった新たな課題に関する国際協力についても、G7が率先して取り組んで行く必要があります。
- さらに、エネルギー安全保障を考える上で、「気候変動」への対応は重要な視点です。パリ協定を踏まえ、持続可能なエネルギーの将来、特にエネルギー分野のイノベーションや技術開発において、G7の主導的な役割が不可欠です。
- このような観点から、本日の会合が有意義なものとなることを期待します。世界経済の成長のための強靱なエネルギー安全保障の確保のため、本日の会合の成果を伊勢志摩サミットにしっかりとつなげてまいります。
- ご静聴ありがとうございました。